

蓋編年記本作道登後人依此書記道昭字於行間者遂攙入本文也宇治橋銘斷石今猶存在宇治常光寺正作道登則扶桑略記引石銘作道堂亦傳寫之誤應據靈異記及石銘以道登造橋爲正也

水鏡云大化二年丙午道登創造宇治橋亦可證靈異記考證

〔帝王編年記孝德〕大化二年丙午元興寺道登道昭奉勅始造宇治川橋又見日本

〔日本紀略桓武〕延曆十六年五月癸巳遣彈正弼文室波多麿造宇治橋又見日本

〔續日本後紀仁明〕承和九年七月己酉是日春宮坊帶刀伴健岑但馬權守從五位下橋朝臣逸勢等謀

反事發覺略仰左右京職警固街巷亦令固山城國五道遣神祇大副從五位下藤原朝臣大津守宇

治橋

〔續日本後紀仁明〕承和十五年嘉祥元年八月辛卯洪水浩々人畜流損河陽橋斷絕僅殘六間宇治橋傾

損

○按ズルニ此事伊呂波字類抄ニ承和十四年ニ作ルハ誤レリ

〔源氏物語角總〕人々いたくこはづくりもよほし聞ゆれば京におはしまさん程はしたなから

ぬ程にもいと心あはたしげにてこゝろよりほかならん夜がれを返々の給ふ

中たえん物ならなくにはし姫のかたしく袖や夜半にぬらさん出がてにたちかへりつや

すらひ給ふ宮

たえせじのわがたのみにやうぢ橋のはるけき中を待わたるべきことにはいでねどもものな

げかしき御けはひかぎりなくおぼされけり

〔源氏物語浮舟〕山のかたはかすみへだてさむきすすきにたてるかさぎのすがたも所が

らはいとおかしくみゆるに宇治橋のはるくとみわたさるに柴つみ舟の所々に行ちがひ

たるなどほかにてはめなれぬこと共のみとりあつめたる所なればみ給たびごとに猶そのか